令和 6 年度　東京都内湾水生生物調査　5 月稚魚調査　速報

●実施状況

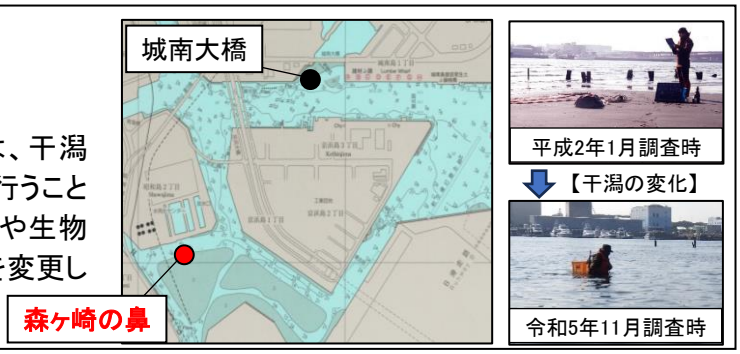
令和 6 年 5 月 8 日に稚魚調査を実施した。天気は晴で、気温は 21.8～24.0℃、調査地点の風は北北東から東南東の東寄り、風速 3.5～5.5m であった。調査当日は大潮で、干潮は 10 時 59 分、満潮は 17 時 36 分であった（気象庁のデータ）。また、いずれの地点においても赤潮は発生していなかった。

全調査地点においてハゼ科が多く出現した。なかでも森ヶ崎の鼻ではマハゼが、葛西人工渚ではエドハゼが非常に多く出現した。

調査地点の変更について

【城南大橋→森ヶ崎の鼻】

これまで調査を実施してきた城南大橋は、干潟が年々縮小し、年間を通じて安全に調査を行うことが困難になったため、今年度より環境特性や生物の出現状況が近い森ヶ崎の鼻に調査地点を変更した。



	お台場海浜公園	森ヶ崎の鼻	葛西人工渚
作業時刻	9:05-10:40	11:20-12:40	13:30-15:33
水温(℃)	20.6	23.2	21.9
塩分(-)	20.9	15.8	9.4
透視度(cm)	87.0	44.0	36.5
DO(mg/L)	7.4	5.3	6.6
DO飽和度(%)	93.7	67.4	80.4
波浪(m)	0.1	0.1	0.1
pH(-)	7.8	7.1	7.6
水の臭気	無臭	無臭	無臭
備考			植物片が大量に入網した。

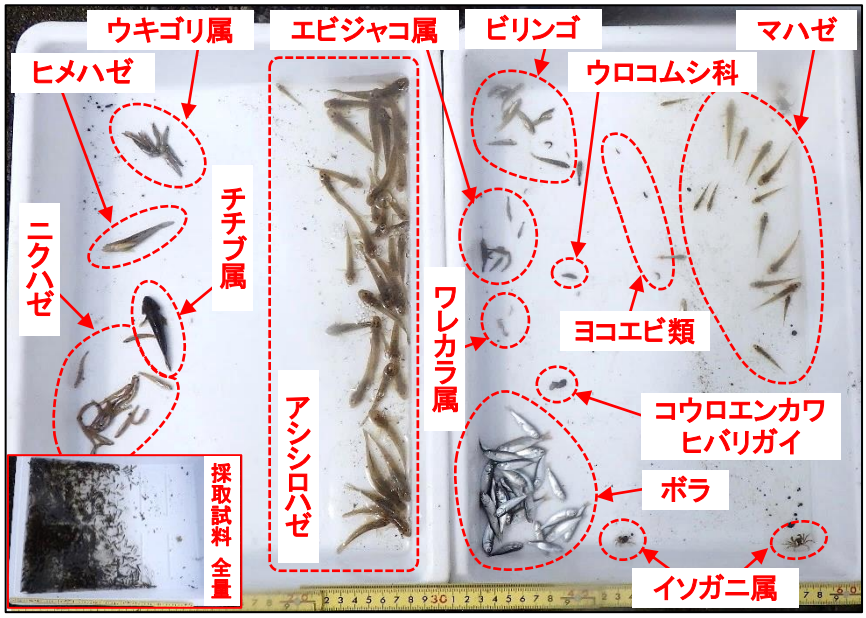
●主な出現種等　（速報のため、種名等は未確定）

主な出現種等	お台場海浜公園	森ヶ崎の鼻	葛西人工渚
魚種（多い順[注]）	マハゼ(m)	マハゼ(G)	エドハゼ(G)
	ビリンゴ(m)	エドハゼ(m)	マハゼ(m)
	ボラ(m)	ビリンゴ(c)	ビリンゴ(m)
	アシシロハゼ(m)	ボラ(c)	ウキゴリ属(m)
	ニクハゼ(m)	ニシン科(r)	ボラ(c)
魚類以外	エビジャコ属(c)	ニホンイサザアミ(c)	ニホンイサザアミ(+)
	イソガニ属(+)	エビジャコ属(c)	シラタエビ(+)
	ワレカラ属(+)	ワレカラ属(+)	クーマ類(r)
備考	他にウキゴリ属、チチブ属、ヒメハゼ等が採集された。	他にニッポンドロソコエビ、コウロエンカワヒバリガイ、ヨコエビ類が採集された。	他にスズキ、ヒモハゼ、フグ科等が採集された。

注）表中の（　）内の記号は大まかな個体数を表す。

G:1000 個体以上、m:100～1000 個体未満、c:20～100 個体未満、+:5～20 個体未満、r:5 個体未満

お台場海浜公園　採取試料



水際数 m で急に深くなる人工の渚。レインボーブリッジのたもとにある。

●主な出現種等　※写真のスケール1目盛:1mm

ウキゴリ属

産卵期は冬から早春。アユと同じように仔稚魚は干潟で成長し、その後、河川を遡上する。河川中流から河口域で生活する。干潟域で見られる稚魚にはウキゴリとスミウキゴリの 2 種が混じっていることが多い。

ビリンゴ

マハゼと並ぶ東京湾を代表するハゼの仲間。淡水の影響を受ける河口付近の干潟に多い。アナジャコ等の甲殻類の巣に産卵し、稚魚は成長するにつれて汽水域～淡水域に移動する。産卵期は早春。

ニクハゼ

東京湾に出現するハゼ科のうち、高塩分の環境を好む種。アマモやアオサが繁茂するやや静穏な海域で見られることが多い。体長 2cm ほどになるまでは、体色が肉色をしており、その名の由来となっている。

マハゼ

河口域を中心に生息するが、河川淡水域に遡上することもある。春から秋にかけて干潟で成長し、徐々に深場へと移動する。産卵期の冬から初夏に雄が河口付近の砂泥底に巣穴を掘り、その中に雌が産卵する。

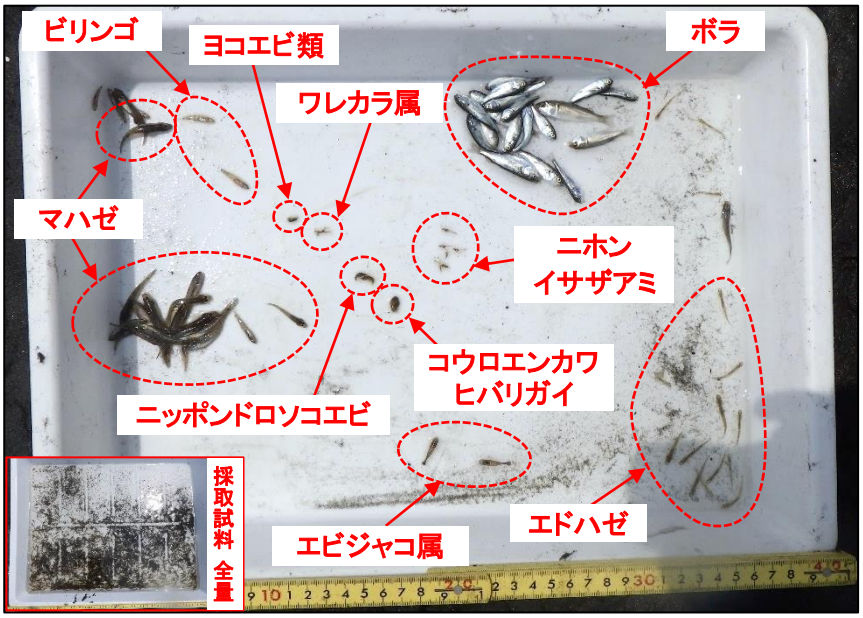
ヒメハゼ

内湾や干潟域の砂底や砂泥底に生息する。砂に潜る習性があり、体の模様も砂や砂利の色にそっくりである。産卵期は5月から 9 月で、二枚貝の貝殻の中に産卵する。下顎が上顎より突出しているのがヒメハゼの特徴。

アシシロハゼ

鱗が粗く、体側にゴマ模様がある。成熟した個体の体側には白い横縞が現れる。初夏から秋にかけて、河口付近の石や貝殻の下面に産卵する。成魚は春の干潟に多く出現し、マハゼの稚魚等を食べる。

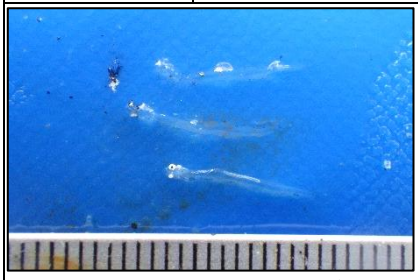
森ヶ崎の鼻　採取試料



羽田空港北側にある干潟。干潮時でも周りは「海」に取り囲まれているため、岸から歩いて入ることはできない。

●主な出現種等　※写真のスケール1目盛：1mm

ニシン科仔魚



サッパまたはコノシロと見られる仔魚。内湾や河口域に生息する。産卵期は春から初夏で、ふ化した仔魚は内湾の干潟域等の浅所でも見られる。

エドハゼ

湾奥の干潟域に生息し、主に小型甲殻類を捕食する。成長するとアナジャコの巣穴を隠れ家として利用するため、成長した個体は小型地曳網で採集されにくい。

マハゼ

※解説はお台場海浜公園を参照。

本地点では1000を超える個体が採集された。

ボラ

東京湾内湾に多く生息する。春から夏にかけて稚魚は干潟で成長する。スズキと同様、成長するにつれて、ハク→オボコ→イナ→ボラ→トドと呼び名が変わる出世魚。干潟で見られるのはオボコまでのことが多い。

ニホンイサザアミ

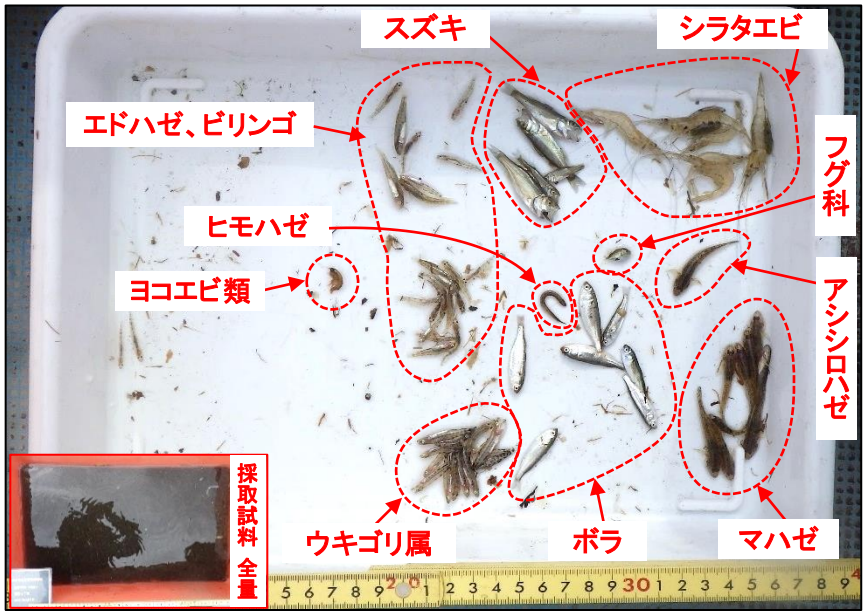
汽水域に生息するアミの仲間。体長10mmほどになる。河口付近で春に大量発生し、魚類等の重要な餌となっている。

今回、抱卵個体が採集された。

ワレカラ属

ヨコエビと近縁の小型の甲殻類（端脚類）。海藻やアマモ等にくっついて生活しており、藻場を利用する幼魚の重要な餌となっている。

葛西人工渚　採取試料



東京湾奥にある広大な人工干潟。野鳥等保護区域のため、一般の立ち入りが禁止されている。

●主な出現種等　※写真のスケール1目盛:1mm

エドハゼ

※解説は森ヶ崎の鼻を参照。
本地点では3000を超える個体が採集された。

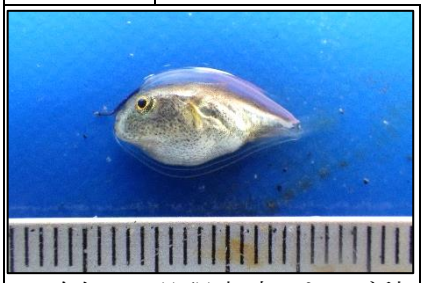
ウキゴリ属

※解説はお台場海浜公園を参照。

スズキ

湾奥から外湾にかけて様々な場所で見られる。仔魚は沖での浮遊生活後に沿岸に向けて接岸回遊をする。内湾の干潟域や人工海浜でハゼ科の稚魚や甲殻類等を食べ、急速に成長する。

フグ科



昨年の6月調査時にもフグ科の稚魚が採集された。フグ科の魚種として、本調査ではクサフグとトラフグが出現しているが、近年、クサフグは確認されていない。

ヒモハゼ

体はミミズのように細長く、体側には暗色の縦帯が走る。全長4cm ほど。アナジャコ等の甲殻類の巣穴を産卵場や隠れ家として利用する。主に小型甲殻類を食べる。

シラタエビ

青く長い触角を持ち、額角がトサカ状に盛り上がる。汽水域を主な生息場とし、干潟にもよく出現する。成熟した個体では、体側に青色斑が現れることが多い。